

2015年9月吉日

キリンビール株式会社
代表取締役社長 布施孝之 様

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
運営委員長 須田 春海
副運営委員長 中井八千代

PETボトル入りビールについての質問とご回答のお願い

いつもおいしいビールや飲み物を私たちにご提供いただきまして、ありがとうございます。
また環境負荷削減のための中容量ビールびんの軽量化や、ノブルユースとして石油使用量を削減したPETボトルの開発など、御社の環境の取組みは他社にない先進的なものであり、心より敬意を表したいと思って参りました。今後もより一層の取組みに期待しております。

さて、2015年8月、三菱樹脂(株)は、御社の会員限定“キリンブルワリーオーナーズクラブ”用のビール容器に、三菱樹脂(株)が開発したハイバリア(DLCコーティング)PETボトルが採用されたことを公表いたしました。かつて、2004年にも他メーカーがPETボトル入りビールを店頭販売しようとしたところ、“PETボトルによるごみ問題”を心配する全国の市民団体や消費者団体が懸念を表明し、その発売が見送られたことがありました。

今日、世界最速の少子高齢化による生産年齢人口の減少や中流市民層の崩壊などにより、これまで私たちの社会を支えてきたパラダイムは大きく転換し、消費者ニーズや人々のライフスタイルは激変しているのは紛れもない確かな事実です。このような中、御社もゴーイングコンサーンとしての事業継続を優先せざるを得ないことは理解しております。

それでも、2013年5月に政府が閣議決定した「第三次循環型社会形成推進基本計画」においても、リサイクルに比べて遅れている“2Rの強化”がうたわれており、ごみ問題解決はCO₂削減と同じように私たちにとって不可欠な環境への取組みであると考えております。家庭ごみの最終処分場は新增設が極めて困難であるため、2015年にはその残余容量が1億m³を切るほどの勢いで減少しており、全国平均では後20年しか持ちません。このごみ問題を解決するために重要なのが容積で5割を占める容器包装であり、そのリデュースとリユースをどのようにして強化するかは、きわめて重要な今日的課題となっております。

もちろん、こうした認識は御社も同様かと存じますが、リユースの優等生であるビール飲料でPETボトル入のものが販売されることについて、私たちはとても危惧しております。

つきましては、たいへんお忙しいところ誠に恐縮ですが、以下のとおり、ご質問とお願いをさせていただきますので、ご回答いただけますよう、どうぞ宜しくお願い致します。できましたら、1ヶ月程度でご回答いただけますと幸いです。なお、ご回答の内容は当ネットワークのWEBで公開させていただく場合もございますので、予めご了解ください。

記

1. 今回のハイバリアPETボトル入りビールは、会員限定の宅配のみに使用するものですか。
2. 今回の宅配が消費者に支持された場合に、店頭販売へと拡大することはありませんか。
3. 会員限定の宅配なので、空ボトルは回収が前提であると思いますが、どのように実行しますか。
4. さらに、ハイバリアPETボトルの容器を強化して、リユースすることをご検討いただけませんか。

以上

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局
〒102-0082 東京都千代田区一番町 9-7 一番町村上ビル 6F 市民運動全国センター内
Tel: 03-3234-3844 Fax: 03-3263-9463
Email: reuse@citizens-i.org URL: <http://www.citizens-i.org/gomiO/>